

第2章 雨水対策を取り巻く課題

2-1 第1次計画期間の取組内容から見た課題

安城市では、第1次雨水マスタープランに基づき、平成23年度から令和2年度までの10年間で、浸水対策や雨水管理などの多面的な取組みを進めてきました。

第2次安城市雨水マスタープランでは、第1次計画期間に明らかとなった以下の課題について重点的に取組んでいます。

～ 安城市における雨水対策の課題 ～

- ① 一級、二級河川の継続的な整備
- ② 抜本的な整備に着手できない準用河川の浚渫の強化（既存ストックの活用）
- ③ 下水道計画に位置づけられる調整池の継続的な整備
- ④ 市民・事業者による雨水流出抑制施設の設置促進
- ⑤ 多大な保水機能を有する農地の保全と水田貯留の更なる推進
- ⑥ 新たな緑化（グリーンインフラ）による雨水流出抑制の促進
- ⑦ “学び備える” 施策の強化
- ⑧ 浸水リスクの高い「追田排水区」、「勢井前第一排水区」、「大山田第一排水区」における重点的な浸水対策の実施

2-2 第2次計画期間に顕在化した課題

① 気候変動の影響

近年、気候の温暖化、短時間集中豪雨の頻発化、台風の大型化など、気候変動の影響が出ています。

これを受けて、国土交通省が発出している「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」が令和3年7月に改訂され、浸水対策の計画に用いる降雨量について、現在の計画降雨量に1.1倍の降雨変化倍率を乗じた降雨量を設定することが示されました。

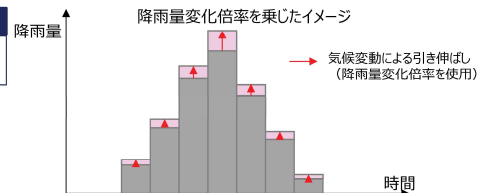
令和3年7月の改訂内容（概要）

○「気候変動を踏まえた都市浸水対策に関する検討会」提言等の内容を踏まえ、気候変動の影響を反映した計画への見直しに向け、令和3年7月に「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」を改訂。

【主な改訂内容①】気候変動の影響を踏まえた計画降雨等の算定

気候変動の影響を踏まえた計画降雨及び計画雨水量の算定にあたっては、降雨量変化倍率を乗じて設定。

地域区分	降雨量変化倍率
北海道北部、北海道南部	1.15
その他14地域（沖縄含む）	1.10



出典：雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）

② 施設老朽化の影響

令和7年1月、埼玉県八潮市で下水道管の破損による道路陥没事故が発生しました。この管は築造から42年が経過しており、施設の劣化による破損が道路陥没の原因とされています。施設の老朽化はかねてより全国的な課題として認識されていましたが、この事故により維持管理の重要性が一層高まっています。

さらに、今後は人口減少により事業の担い手不足が予想されるため、計画的かつ効率的な維持管理が求められます。



出典：八潮市で発生した道路陥没事故に関する原因究明委員会